

再編に向けた具体的な評価手法の検討（例示）

多種多様な施設の再編を進めるにあたり、市域全体で統一的、客観的に施設を相対評価するには、多面的な視点で取り組む必要がある。

1. 評価基準

(1) 利用圏域別区分による評価

施設規模、利用状況等から利用圏域別に整理、区分し、再配置を検討する。

特に、文化、スポーツなどの地域交流性の高い施設について、その位置づけを明確にし、利用圏域を超えた再配置を進める。

区分	施設のあり方	再編の検討方針等
①広域施設	市の主要な施策を推進する中核的施設。	それぞれの用途で市域に1つの設置を基本とする。
②市域施設	市域全体の利用を基本とする施設。	用途ごとに市域に1～2つ程度の設置を基本とする。
③地域施設	旧市町内の利用を基本とする施設。	利用が少ない施設については、②への統合、転用による機能重複の解消、④への再編を検討。老朽化した非耐震施設は、廃止を検討。
④生活圏域施設	小、中学校区内程度の利用を基本とする施設。	用途ごとに施設の適正な配置を考慮し、統廃合や他目的への転用による機能重複の解消、複合化等について検討。老朽化した非耐震施設は、廃止を検討。
⑤コミュニティ圏域施設	単独又は少数の町内会程度の利用を基本とする施設。	地元への譲渡や老朽化した非耐震施設は、廃止を検討。

(2) 用途別区分による評価

施設機能等から用途別に整理、区分し、再配置を検討する。

区分	再編の検討方針等
ホール	利用圏域別に整理し、地域性、利用人員等を考慮して統廃合する。機能を集約化し、複合的な利用や運営管理の見直しを行う。
スポーツ施設	設置目的、施設の特徴、地域性を考慮しながら、利用圏域別区分による統廃合を進める。複合的な利用や運営管理の見直しを行う。
□□□	地域バランスを是正し、多用途利用を推進する。

2. 評価指標

保有する多数の公共施設を、評価指標によりいくつかの施設群（ポートフォリオ）に分類して、施設群ごとに適切な方向性を策定する。

【<施設の状況（老朽化等）>と<利用の状況>を評価指標に採用した場合のイメージ】

